

(19)日本国特許庁(JP)

(12)登録実用新案公報(U)

(11)登録番号
実用新案登録第3250103号
(U3250103)

(45)発行日 令和7年2月12日(2025.2.12)

(24)登録日 令和7年1月31日(2025.1.31)

(51)国際特許分類

F I

A 4 7 C 3/16 (2006.01)

A 4 7 C 3/16

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 書面 (全10頁)

(21)出願番号	実願2024-3364(U2024-3364)	(73)実用新案権者	524374588
(22)出願日	令和6年9月24日(2024.9.24)	小川 真貴子	
		神奈川県横浜市金沢区金利谷東1-56-2	
		(72)考案者	小川 真貴子
		神奈川県横浜市金沢区金利谷東1-56-2	

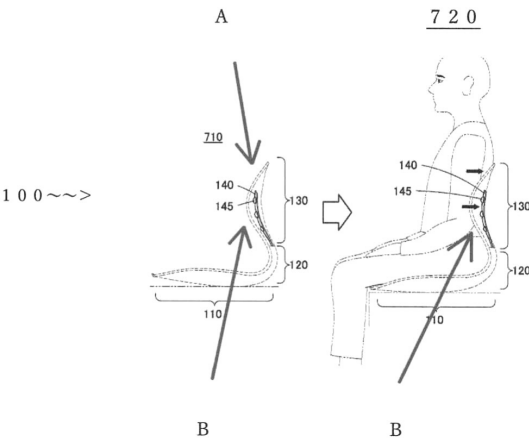
(54)【考案の名称】 東洋医学の指圧のツボを刺激する機能性健康座椅子

(57)【要約】 (修正有)

【課題】機能性健康座椅子は、健康増進具であり、腰部や背筋を支持するための樹脂製椅子を提供する。使用者が機能性椅子に座る場合、背中中部を効率よく支持しながら使用者の腰椎に対する指圧の効果を最大化する。

【解決手段】機能性健康座椅子は、樹脂製の座椅子の背もたれ部に指圧用の突起物をツボ位置に対応するように設けたものである。使用者が機能性椅子に着座したとき臀部と太もも部位を収容する第1板部110と、腰と背中中部を収容する第2板部130と、第1板部及び第2板部を連結する連結部120とを含み、第2板部には使用者ユーザが着座したとき、腰部に密着する指圧部140が形成される。これは、使用状態の図720に示す如く、腰を掛けた状態で使用されるものである。

【選択図】図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

機能性健康座椅子において、
着座者が前記座椅子に着座したとき、尻と太もも部位を収容する第 1 板部と、
前記ユーザが前記座椅子に着座したとき、腰と背中部を収容する第 2 板部と、
前記第 1 板部及び前記第 2 板部を連結する連結部と、を含み、
前記第 2 板部に東洋医学の指圧のツボの位置を明確して、そのツボに対応する突起物を
設けたことを特徴とする機能性健康座椅子。

【請求項 2】

その機械的強度を確保するために、材質をナイロン合成樹脂とポリエステルファブリックとし、射出成型による加工によって、機械的圧縮強度を 380 kg 以上にしたこと
を特徴とする請求項 1 に記載の機能性健康座椅子。

【請求項 3】

脊柱管狭窄症の予防」に寄与する構造でその機能を発揮するために脊椎の解剖学的見地と人間工学的見地からこれに対応する S 字構造にしたことを特徴とする請求項 1 又は、請求項 2 に記載の機能性健康座椅子。

【請求項 4】

「陰ヨガストレッチ」に寄与する構造とその機能を発揮するために、これに対応する形状にしたことを特徴とする請求項 1 又は、請求項 2 又は、請求項 3 に記載の機能性健康座椅子。。

【請求項 5】

着座者が着座したとき、臀部と太もも部位を収容する第 1 板部と、前記着座者が前記座椅子に着座したとき、腰と背中部を収容する第 2 板部と、前記第 1 板部及び前記第 2 板部を連結する連結部とを含み、前記第 2 板部には、前記着座者が前記座椅子に着座したとき、腰部に密着する指圧部が形成されることができ、上前記指圧部の下端は、前記連結部と連結され、前記指圧部の上端及び側端は、前記第 2 板部と離隔され、前記指圧部は、前記第 2 板部の中央位置の一領域に形成され、前記腰部を加圧支持する機能を提供することができることを特徴とする請求項 1 又は、請求項 2 又は、請求項 3 又は、請求項 4 に記載の機能性健康座椅子。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、東洋医学の指圧のツボを刺激し、健康増進を提供するための機能性健康座椅子に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

椅子の基本的な機能は、休憩及び作業時に着座者の上体を支える機能を行うことである。

椅子は、一般に、臀部と腰椎を支持する組立物で構成されており、バネ、クッション又はバネに置かれているパッドなどを含んでいる。

椅子を使用する場合、着座者は、一般に 2 つの特徴的な姿勢を取るが、これは後方に体を寄せて休憩する姿勢と、前方に体をかがめて作業を行う姿勢を含む。

【0003】

椅子は、着席者が取るこれらの 2 つの特定な姿勢に対して適切に変形し、着座者の体を支持しなければならない。休憩時において、着座者の上体を楽で良い姿勢に保持してくれる椅子は多く紹介されてきた。椅子には背もたれが備えられているが、このような背もたれの調整ができない構造が大部分であるため、着座者が長時間椅子に座っている場合に疲れやすくなり、腰椎の神経押さえ現象や脊椎変形などを起こしかねない問題があった。

従って、このような問題を解決するための機能性椅子に対する研究が求められている。

【0004】

従来の椅子座本体（１）は、座部（３）と背部（４）を有し、脚部材（２）は、上記椅子座本体（１）の座部（３）に沿う前脚（１２）と上記背部（４）に沿う床枠（１３）を一連に有している。この脚部材（２）の前脚（１２）は、上記座部（３）に枢軸（１５）で枢着されている。これにより、上記脚部材（２）は、上記椅子座本体（１）に沿う折りたたみ位置と、上記前脚（１２）が座部（３）の下方に起立し、床枠（１３）が床面に沿う展開位置に回動可能となる。展開位置において、起立状態に位置するように上記床枠（１３）には後脚（９）が枢着（１９）されている。後脚（９）の先端は、展開位置でシート本体（１）の係合部（２０）に係合する。上記脚部材が展開位置にあるとき、脚付の椅子となり、折りたたみ位置にあるとき、座椅子になる。

このものが、下記の特許文献に開示されている。

10

【特許文献１】特許公開公報 特開平１１－１１３６８０

【特許文献２】意匠登録公報 意匠登録第１６８４５００号

【０００５】

特許文献１の実施例を図４の説明図に示している。すなわち、後脚（９）は、その一端が椅子座本体（１）の座部（３）に枢着（２８）してあり、該後脚の他端に設けた案内軸（２９）を脚部材（２）の床枠（１３）に設けた係合溝等の係合部（３０）に係合するようにしてある。

また、該後脚（９）の他端に設けた該案内軸（２９）を案内するように上記脚部材（２）の床枠（１３）には案内溝（３１）を設けてあり、これにより上記脚部材（２）が折りたたみ位置と展開位置に移動する際、上記後脚の移動が案内される。これは、椅子座の塑性変形する材質でないためである。

20

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【０００６】

従来技術の不備・欠点に対し、本考案の目的は、着座者が機能性健康座椅子に座る場合、背中部を効率よく支持しながら着座者の腰椎に対する指圧の効果を最大化することにある。

１）このために、人体の臀部・腰部の東洋医学の針灸のツボに対応する突起物による指圧を与えられることである。

２）着座者が機能性健康座椅子に座って、ストレッチ運動も行いするので、座椅子の機械的強度がこれに見合うものであることである。

30

３）「脊柱管狭窄症の予防」に寄与する構造でその機能を発揮するものであることである。

４）「陰ヨガストレッチ」に寄与する構造とその機能を発揮するものであることである。

【課題を解決するための手段】

【０００７】

このような課題を解決するために本考案者は、下記の本考案をなすに至った。

１）機能性健康座椅子において、東洋医学の指圧のツボの位置を明確して、そのツボに対応する突起物を設けたことである。

２）機能性健康座椅子において、その機械的強度を確保するために、材質をナイロン合成樹脂とポリエステルファブリックとし、射出成型による加工によって、機械的圧縮強度を３８０ｋｇ以上にしたことである。

40

３）「機能性健康座椅子において、脊柱管狭窄症の予防」に寄与する構造でその機能を発揮ために脊椎の解剖学的見地と人間工学的見地からこれに対応するＳ字構造にしたことである。

４）機能性健康座椅子において、「陰ヨガストレッチ」に寄与する構造とその機能を発揮するために、これに対応する形状にしたことである。

５）機能性健康座椅子において、その構造物の個々の構成に関しては、下記の構造にしたことである。

本考案の１つの局面において、本考案の機能性健康座椅子は、着座者が前記座椅子に着

50

座したとき、臀部と太もも部位を収容する第 1 板部と、前記着座者が前記座椅子に着座したとき、腰と背中部を収容する第 2 板部と、前記第 1 板部及び前記第 2 板部を連結する連結部とを含み、前記第 2 板部には、前記着座者が前記座椅子に着座したとき、腰部に密着する指圧部が形成されることができる。

【0008】

すなわち、前記指圧部の下端は、前記連結部と連結され、前記指圧部の上端及び側端は、前記第 2 板部と離隔され、前記指圧部は、前記第 2 板部の中央位置の一領域に形成され、前記腰部を加圧支持する機能を提供することができる。

【0009】

本考案の 1 つの実施形態では、前記着座者が前記座椅子に着座して前記第 2 板部に背中部を寄せるとき、前記第 2 板部と前記指圧部は弾性力をもって変形され、前記第 2 板部と前記指圧部は互いに異なる復原力を有することができる。

【0010】

前記指圧部は、前記着座者が前記座椅子に着座したとき、弾性力を有しながら着座者の腰部に合わせるように変形され、前記腰部に対する指圧の効果をより強化するための複数の突出部を含んでいる。

【0011】

前記着座者が前記座椅子に着座して後面に体を寄せる場合、前記着座者の荷重（自重）によって前記第 1 板部の前方は下方に下がり、前記指圧部は、前記第 2 板部の他の部分よりも強い復原力で前記腰部に指圧の効果を提供することができる。

【考案の効果】

【0012】

本考案によれば、着座者が機能性健康座椅子に座する場合、背中部を効率よく支持しながら着座者の腰椎に対する指圧の効果を最大化することができる。

1) 機能性健康座椅子において、東洋医学の指圧のツボの位置を明確して、そのツボに対応する突起物を設けたことにより、指圧の効果を得ることができる。

2) 機能性健康座椅子において、その機械的強度を確保するために、材質をナイロン合成樹脂とポリエステルファブリックとし、射出成型による加工によって、機械的圧縮強度を 380 kg 以上にしたことにより、着座者が機能性健康座椅子上で安心して反り返りのストレッチ運動ができる。

3) 「機能性健康座椅子において、脊柱管狭窄症の予防」に寄与する構造でその機能を発揮ために脊椎の解剖学的見地と人間工学的見地からこれに対応する S 字構造にしたことにより、脊柱を S 字構造に補正をすることができる。

4) 機能性健康座椅子において、「陰ヨガストレッチ」に寄与する構造とその機能を発揮するために、これに対応する形状にしたことにより、ストレッチ運動に対応できる。

5) 機能性健康座椅子において、座椅子構造にしたことにより、ソファ上・床上・戸外・背もたれのないベンチ上・車の運転席上などで使用できる。

【図面の簡単な説明】

【0013】

【図 1】本考案の機能性健康座椅子の使用前（左）と使用中（右）の側面図である。

【図 2】東洋医学の人体の臀部と腰部のツボの位置を示す図である。

【図 3】本考案の機能性健康座椅子の鳥瞰図である。

【図 4】特許文献 1 に記載の可撓性のない材質の椅子座を示す実施状況図（左図）と特許文献 2 に記載の実施状況図（右図）である。

【図 5】本考案の機能性健康座椅子の強度の試験状態を示す図である。

【図 6】本考案の機能性健康座椅子の「脊柱管狭窄症の予防」に寄与する説明図である。

【図 7】本考案の機能性健康座椅子の「陰ヨガストレッチ」に寄与する説明図である。

【図 8】本考案の機能性健康座椅子の「ストレッチ運動」に寄与する説明図である。

【考案を実施するための形態】

【0014】

以下、図面を参照しながら、本考案の実施の形態を説明する。

図 1 は、一実施形態に係る機能性健康座椅子 100 の全体的な形状を示す使用前 710 (左) と使用中 720 (右) 示す。

図 2 は、東洋医学の人体の臀部と腰部のツボの位置を示す。

図 3 は、機能性座椅子 100 の鳥観図を示す。

図 4 は、特許文献 1 に記載の可撓性のない材質の椅子座を示す実施状況を示す (左図) と、特許文献 2 に記載の使用者により座が前方向へ摺動可能であり、前へ摺動すると同時に背もたれは傾斜角が緩くなる椅子の実施状況図 (右図) である。

図 5 は、本考案の機能性健康座椅子の強度の試験状態を示している。

図 6 は、本考案の機能性健康座椅子の「脊柱管狭窄症の予防」に寄与する説明図である

10

。図 7 は、本考案の機能性健康座椅子の「陰ヨガストレッチ」に寄与する説明図である。

図 8 は、本考案の機能性健康座椅子の「ストレッチ運動」に寄与する説明図である。

【0015】

図 1 を参照すると、参照番号 (710) は、着座者が機能性健康座椅子 (100) に着座していない状態を表し、(720) は、着席者が機能性健康座椅子 (100) に着座した状態を示す。

参照番号 (710) の場合と同様に、着席者が機能性健康座椅子 (100) に着座する前に突出部 (145) を含む、指圧部 (140) が第 2 板部 (130) の周面よりも前方に突出されている。

20

参照番号 (720) の場合と同様に、着座者が機能性健康座椅子 (100) に着座して背面に体を押しつけた場合、連結部 (120) と第 2 板部 (130) は、弾性を有して変形されることになる。着座者が機能性健康座椅子 (100) に座る場合、着座者の荷重により第 1 板部 (110) の前方は下へ進入して、第 1 板部 (110) と一体に形成された連結部 (120) と第 2 板部 (130) が使用者の腰部位と及び背中部位に特定の弾性力を提供しながら密着されることになる。第 2 板部 (130) は、長手方向に前方へ湾曲された形状を有することができ、このような形状によって第 2 板部 (130) は、着座者が機能性健康座椅子 (100) に着座時に湾曲された、ウエスト部分と後方に傾くことが背中部位を支持することができる形態を有することにより、着座者の腰部位などの部位が第 2 板部 (130) に密着支持されるようになる。

30

図 1 の A に示すように第 2 板部 130 が連結部 120 よりも前方に張り出している構成になっており、

図 1 の B に示すように第 2 板部 130 が、着座したときに、前方に押し出されて、着座者の腰部と背中部に密着して支持するよう湾曲した形態を備える構成になっている。

図 2 の図面を参照すると、東洋医学の人体の臀部と腰部のツボの位置は人体の背筋を中心にして、左右対称に分布していることが良く理解できる。

図 3 の図面を参照すると、機能性健康座椅子 100 として、具体的に、指圧部 140 を備える機能性健康座椅子を示している。機能性健康座椅子 100 は、第 1 板部 110、第 2 板部 130 及び第 1 板部 110 と第 2 板部 130 を連結する連結部 120 を有している

40

。第 1 板部 110 は、着座者が機能性健康座椅子 100 に着座したとき、臀部と太もも部位を収容し、第 2 板部 130 は、着座者が機能性健康座椅子 100 に着座したとき、腰と背中部を収容する。第 1 板部 110、第 2 板部 130、および連結部 120 は一体に形成されている。

【0016】

第 1 板部 110 は、着座者の太もも部位と臀部を載置又は配列する座板であって、前方が上部に少し持ち上げられた形状にしている。実施形態により、第 1 板部 110 には取り外し可能な板形の座布団 115 を備えることもできる。

第 1 板部 110 は、円弧度 6 ～ 8 度の皿形状が望ましい。

【0017】

50

第２板部１３０は、連結部１２０の後方に延長形成されて、着座者の腰部位と背中部位を支持する背板である。第２板部１３０は、腰と背中部とを密着するための適切な湾曲を有していて、連結部１２０を介して第１板部１１０と連結されてもよい。第２板部１３０は、例えば、長手方向に前方に湾曲するよう形成することが出来る。

【００１８】

連結部１２０は、着座者が機能性健康座椅子１００に着座するとき、着座者の臀部分が位置する箇所であって、図示するように湾曲に形成されてもよい。連結部１２０と第２板部１３０は、弾性力を提供するフレキシブルな材質を含んでもよい。実施形態により、連結部１２０及び第２板部１３０だけでなく、第１板部１１０もフレキシブルな材質を有してもよい。

【００１９】

第２板部１３０には、着座者が機能性健康座椅子１００に着座したとき、腰部に密着する指圧部１４０が形成されている。例えば、指圧部１４０は、第２板部１３０の中央位置の一領域に形成され、着座者の腰部を加圧支持する機能を提供する。指圧部１４０は、第２板部１３０と一体に形成することが出来る。

【００２０】

本考案の一実施形態において、指圧部１４０の下端は連結部１２０と連結し、指圧部１４０の上端及び側端は第２板部１３０と離隔されている。また、指圧部１４０は、第２板部１３０の表面を基準として突出している。このような構造的な特徴により、着座者が機能性健康座椅子１００に着座して第２板部１３０に背中部を寄せたとき、第２板部１３０と指圧部１４０は弾性力をもって変形するが、ここで、第２板部１３０と指圧部１４０は互いに異なる復原力を有してもよい。指圧部１４０が第２板部１３０よりも前方に突出しているため、着座者が背中部を第２板部１３０に寄せた場合、指圧部１４０に密着した身体部位である腰部に、残りの第２板部１３０に密着した身体部位よりもさらに強い力が作用することになる。指圧部１４０が強い圧力および力を提供することで、着座者の腰椎に対する指圧の効果が最大化される。一実施形態において、着座者が機能性健康座椅子１００に着座して後面に体を寄せた場合、着座者の荷重（自重）により第１板部１１０の前方は下方に下がり、指圧部１４０は、第２板部１３０の他の部分よりも強い復原力で着座者の腰部に指圧の効果を提供することができる。

【００２１】

指圧部１４０は、着座者が機能性健康座椅子１００に着座したとき、着座者の腰部位を刺激するための複数の突出部１４５を含んでいる。このような突出部１４５の材質は様々であっても良い。

突出部１４５は、第２板部１３０の長手方向に所定の間隔をもって並んでもよく、左右対称に配列されてもよい。このような突出部１４５は、機能性健康座椅子１００の腰部の指圧の効果をもっと強化した役割を果たす。

【００２２】

図１の突出部１４５は、東洋医学の人体の臀部と腰部のツボの位置を示す図であるところの図２に従って、配置するものとする。このことは、本考案の最大の重要要件である。

着座者が機能性健康座椅子（１００）に着座して背面に体を押しつけた場合、指圧部（１４０）も弾性力を有し、かつ機能性健康座椅子の腰回りに合わせて変形することができる。

一実施形態では、指圧部（１４０）は、第２板部（１３０）の他の部分より強い復元力で着座者の腰部位に指圧効果を提供することができる。指圧部（１４０）に形成された突出部（１４５）は、指圧効果を極大化することができる。第１板部（１１０）、第２板部（１３０）、連結部（１２０）および指圧部（１４０）が一体に形成された機能性健康座椅子（１００）は指圧部（１４０）の弾性力に基づいて指圧効果を着座者に提供することができ、機能性健康座椅子が正しい姿勢で座ることを可能にする。また、着座者が機能性健康座椅子（１００）に着座時に、指圧部（１４０）を基準に第２板部（１３０）が左側と右側に分離される効果が発生することができ、これを介して第２板部（１３０）が着座

10

20

30

40

50

者の背中部位を効果的に支持することができるようになる。

【産業上の利用の可能性】

【0023】

上記のような機能性健康座椅子100は、複雑な構造やヒンジ手段なくとも、第1板部110及び第2板部130と一体に形成された指圧部140を介して腰部に指圧の効果を効率よく提供することができる。指圧部140と他の構成要素が一体に形成されることで、機能性健康座椅子100を製造するための工程を簡単にし、機能性健康座椅子100の製造に費やされる費用を節減することができる。また、指圧部140を備える機能性健康座椅子100は、着座者が椅子に着座したとき、腰椎の変形や疲労感及び腰痛などを予防できる効果を提供できる。着座者は、機能性健康座椅子100を通じて腰椎の痛みなしに安らかさを感じながら、長時間機能性健康座椅子100に楽に座っていることができる。

10

【符号の説明】

【0024】

100：機能性健康座椅子

110：第1板部

115：座布団

120：連結部

130：第2板部

140：指圧部

145：突出部

150：支持部

1 シート本体

2 脚部材

6 台座

3 座部

7 緩衝材

4 背部

8 フレーム

9 後脚

10 案内溝

12 前脚

13 床枠

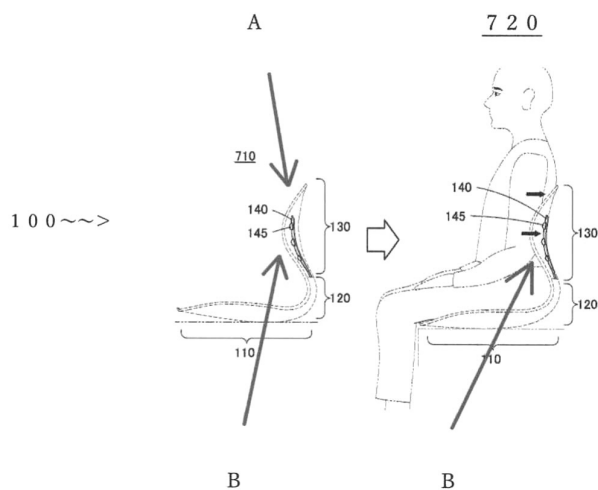
15 枢軸

22 案内リンク

20

【図面】

【図1】



【図2】



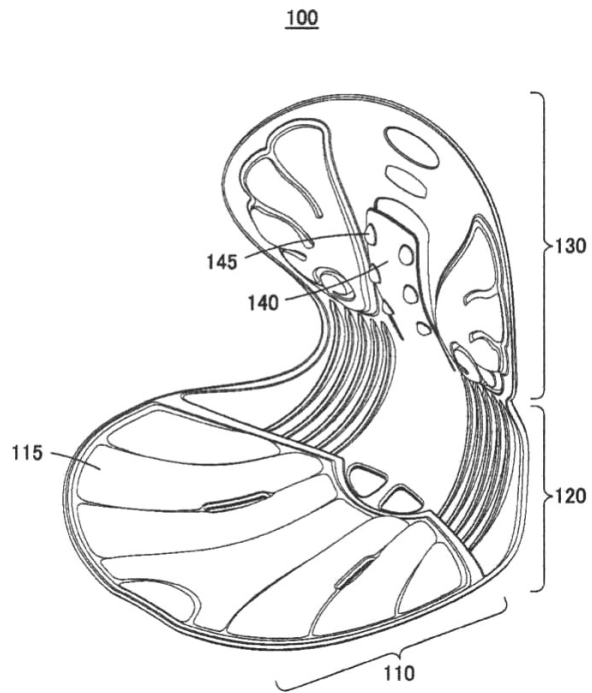
30

40

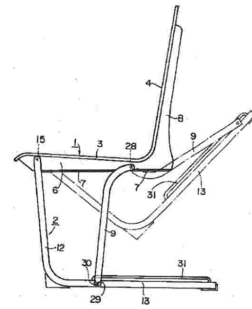
カラー

50

【図 3】



【図 4】



特開平 11-113680



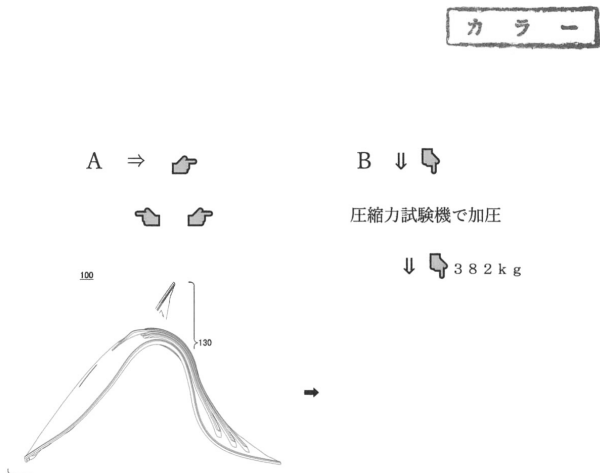
意匠登録第 1684500 号

カラー

10

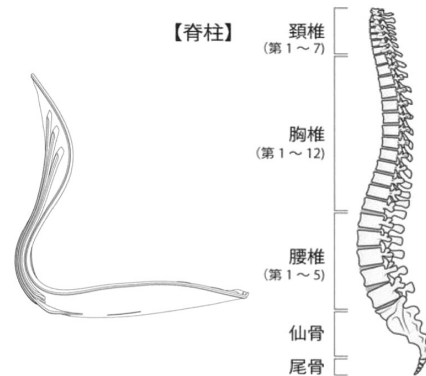
20

【図 5】

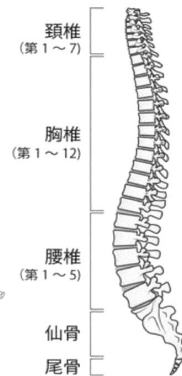


カラー

【図 6】



【脊柱】



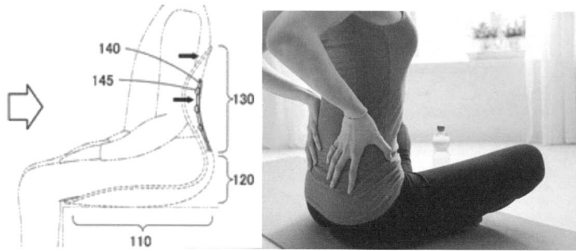
カラー

30

40

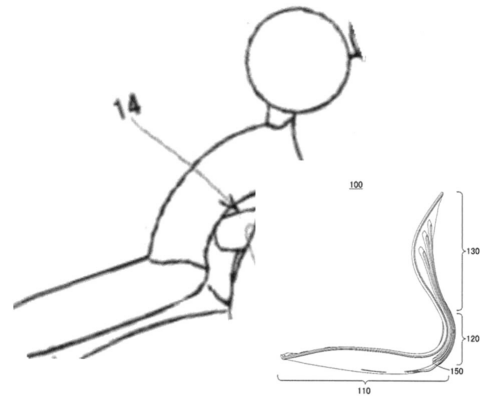
50

【図 7】



カ ラ ー

【図 8】



カ ラ ー

10

20

30

40

50

【手続補正書】

【提出日】令和6年11月29日(2024.11.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】

機能性健康座椅子において、

着座者が前記座椅子に着座したとき、尻と太もも部位を収容する第1板部と、
前記ユーザが前記座椅子に着座したとき、腰と背中部を収容する第2板部と、
前記第1板部及び前記第2板部を連結する連結部と、を含み、
前記第2板部に東洋医学の指圧のツボの位置を明確して、そのツボに対応する突起物を設けたことを特徴とする機能性健康座椅子。

10

【請求項2】

その機械的強度を確保するために、材質をナイロン合成樹脂とポリエステルファブリックとし、射出成型による加工によって、機械的圧縮強度を380kg以上にしたことを特徴とする請求項1に記載の機能性健康座椅子。

【請求項3】

脊柱管狭窄症の予防」に寄与する構造でその機能を発揮するために脊椎の解剖学的見地と人間工学的見地からこれに対応するS字構造にしたことを特徴とする請求項1に記載の機能性健康座椅子。

20

【請求項4】

「陰ヨガストレッチ」に寄与する構造とその機能を発揮するために、これに対応する形状にしたことを特徴とする請求項1又は、請求項2に記載の機能性健康座椅子。

【請求項5】

着座者が着座したとき、臀部と太もも部位を収容する第1板部と、前記着座者が前記座椅子に着座したとき、腰と背中部を収容する第2板部と、前記第1板部及び前記第2板部を連結する連結部とを含み、前記第2板部には、前記着座者が前記座椅子に着座したとき、腰部に密着する指圧部が形成されることができ、上前記指圧部の下端は、前記連結部と連結され、前記指圧部の上端及び側端は、前記第2板部と離隔され、前記指圧部は、前記第2板部の中央位置の一領域に形成され、前記腰部を加圧支持する機能を提供することができることを特徴とする請求項1又は、請求項2に記載の機能性健康座椅子。

30

40

50